

May-Giemsa染色

使用試薬: **sysmex SMS-800** メイグリンワルド染色液

sysmex SGS-800 ギムザ染色液

sysmex SPB-300 リン酸緩衝液 pH6.6

染色方法: 上乘せ法にて実施

- ①メイグリンワルド液1mlを載せる 2分
- ②リン酸緩衝液を1ml載せ、息吹きで混合 1分
- ③スライドの裏側から軽く水洗
- ④ギムザ混合液(リン酸緩衝液25mlに対してギムザ液1ml)を満載 10分
- ⑤スライドの裏側から軽く水洗、風乾

検討染色法として

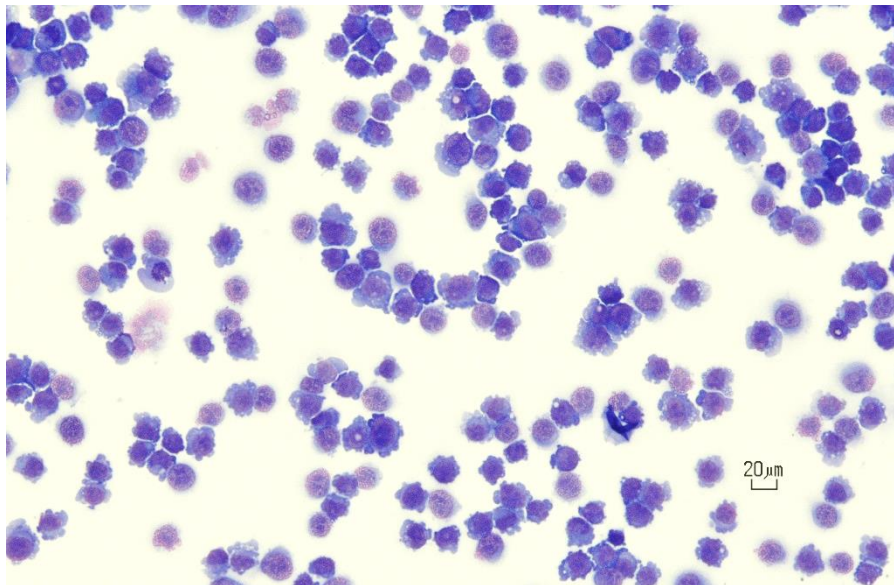
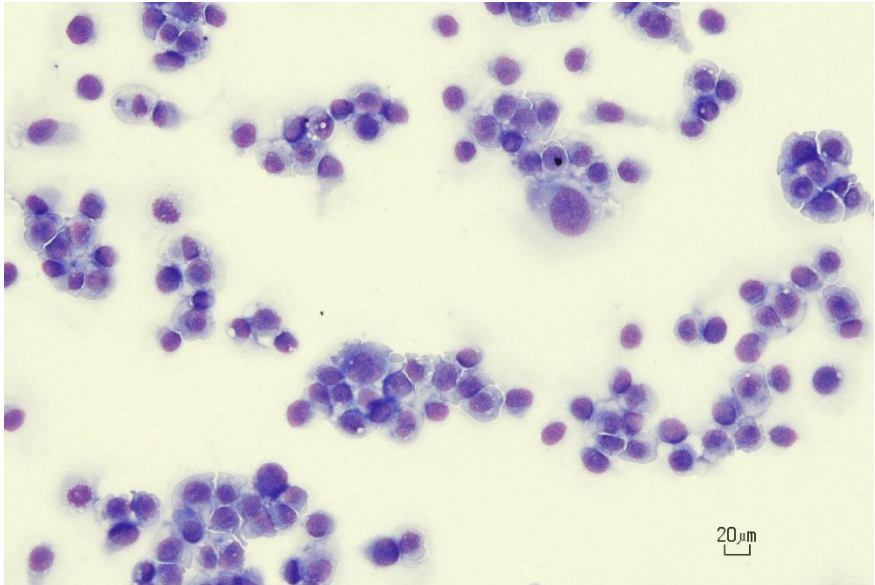
- ④ギムザ混合液(リン酸緩衝液40mlに対してギムザ液1ml)を満載 15分

スライド2枚の染色態度の違いについても評価を行った。



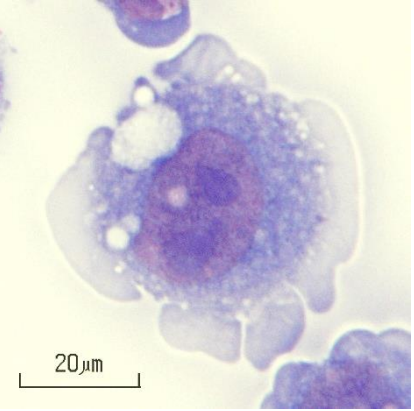
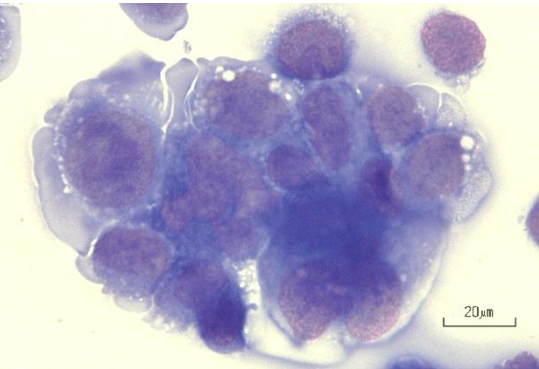
ギムザ液1:25 10分

ギムザ液1:40 15分

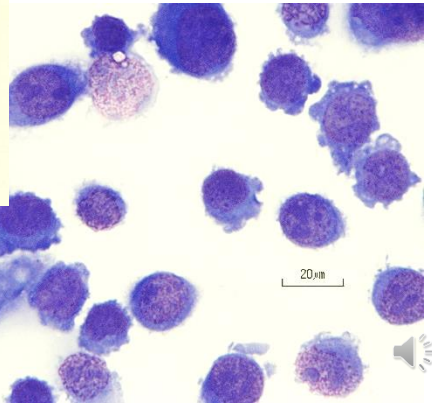
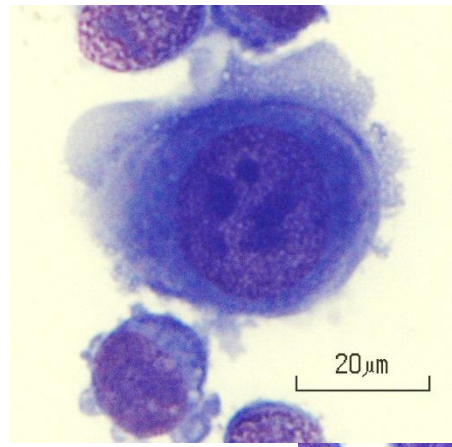


対物10倍

対物10倍



対物40倍



対物40倍

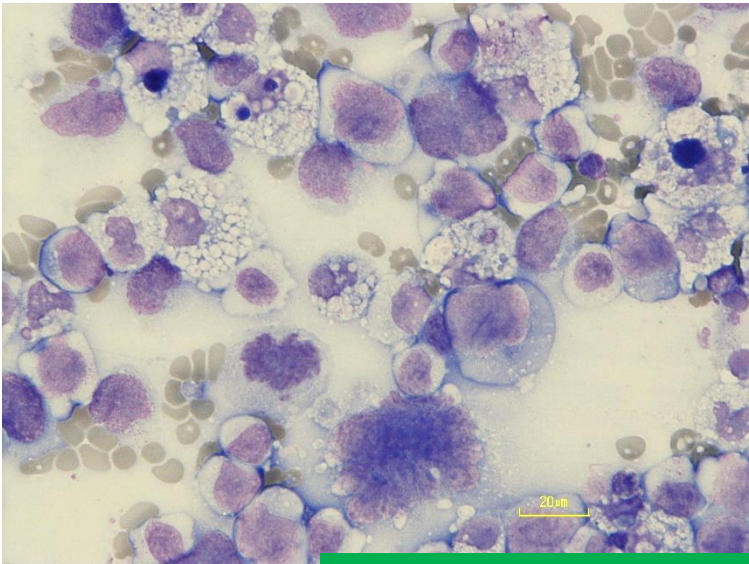
中皮腫細胞診所見

- * 二核以上の多核細胞の増加
- * 細胞質辺縁の不明瞭化
- * 好塩基性の細胞質
- * 核小体明瞭で1～数個見られる
- * 相互封入像、hump様細胞質突起

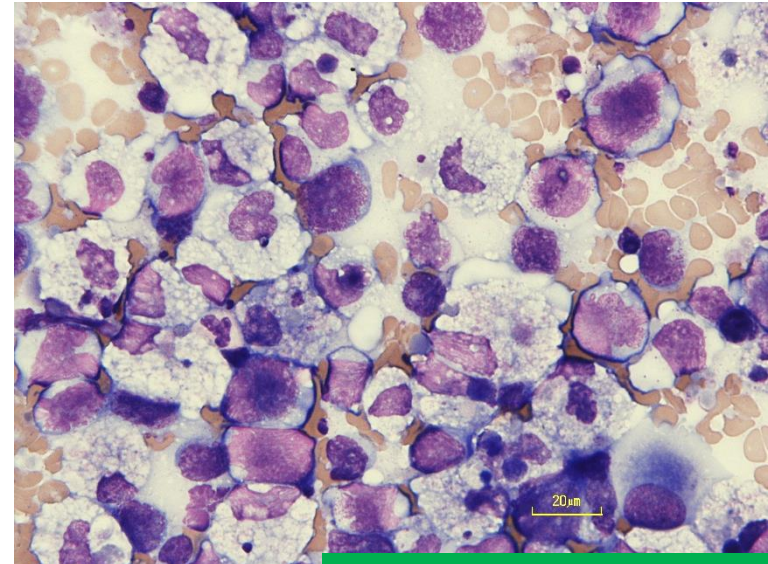
(* II型またはIII型collagenous stroma)

染色時間の違いによる染色性

当院別症例



ギムザ液1:25 10分



ギムザ液1:40 20分



重要視している事

染色態度を一定に保ち、最適な標本作製を行う

* ギムザ混合液は使用時に調整する(毎日新調)

緩衝液にギムザ液を注ぎ、軽く攪拌する。

激しく攪拌すると色素の沈殿物が生じ、染まりが薄くなる。

* リン酸緩衝液のpH値を一定に保つ

	低 ←	pH	→ 高
細胞質	正(+) に荷電		負(-) に荷電
結合しやすい色素	酸性色素		塩基性色素
標本全体の色調	赤色優勢		青色優勢

* 標本によってギムザ染色時間を変更させる

	弱 ←	染色性	→ 強
色素濃度	低い		高い
染色時間	短い		長い
染色温度	低い		高い

